
2024年10月10日

各位

株式会社 三十三総研

第57回「経営者アンケート」調査結果について

三十三フィナンシャルグループのシンクタンクであります株式会社三十三総研（代表取締役社長 東海 悟）では、このたび三十三銀行のお取引先企業で構成する三十三ビジネスクラブの会員を対象とした経営者アンケートを実施し、調査結果を取りまとめたのでご報告申し上げます。

ー経営者アンケート調査の概要ー

1. 調査対象

三十三ビジネスクラブ会員で、資本金1億円以下の三重県下法人企業1,642先

2. 調査方法

郵送およびインターネットによるアンケート調査

3. 調査時期

2024年8月下旬～9月中旬

4. 回収状況

配布数 1,642票

回収数 594票（回収率 36.2%）

5. 調査結果

別添資料

※経営者アンケートは、年2回（3月・9月）実施しております。

なお、本件に関するお問い合わせは、下記担当者までお願い致します。

株式会社三十三総研 調査部（059-354-7102）

担当 内田 誠弥

以上

第 57 回経営者アンケート調査結果<概要版>

景況感は 2 半期連続で悪化、先行きは改善見通し

【今回のポイント】

景況感を示す景気判断 D.I.値(注)は 11 半期連続のマイナスとなったことに加え、マイナス幅が拡大(▲13.9→▲16.7)したことで、2半期連続で悪化した。(p3)

2024 年度上期(2024 年4月～2024 年9月)の県内景気は、景況感を示す D.I.値が▲16.7 と 11 半期連続のマイナスとなったことに加え、2023 年度下期(2023 年 10 月～2024 年3月)の▲13.9 から 2.8 ポイント悪化した。来期(2024 年 10 月～2025 年3月)の D.I.値は▲8.9 とマイナス幅が縮小(▲16.7 →▲8.9)し、経営者の景況感は改善する見通し。

【総括】

景況感を示す景気判断 D.I.値(注)は 11 半期連続のマイナスとなったことに加え、マイナス幅が拡大(▲13.9→▲16.7)したことで、2半期連続で悪化した。先行きについては、2024 年度下期の D.I.値はマイナス幅が縮小(▲16.7→▲8.9)し、経営者の景況感は改善する見通し。

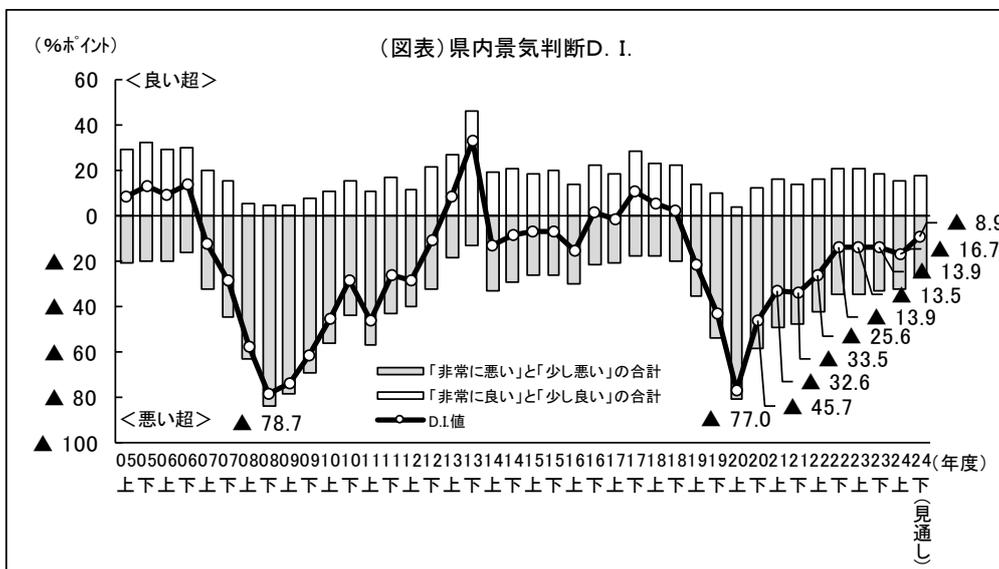
業界別にみると、景気判断 D. I. 値は、製造業が 11 半期連続でマイナスとなったものの、3半期ぶりに改善(▲33.3→▲24.5)、建設業が 11 半期連続でマイナスとなり、4半期ぶりに悪化(▲5.8→▲23.7)、非製造業が 13 半期連続でマイナスとなり、2半期ぶりに悪化(▲14.0→▲20.0)した。

売上高の D.I.値は、製造業が4半期ぶり、非製造業が3半期ぶりに改善(製造業:▲18.9→+3.3、非製造業: +4.6→+10.0)した一方、建設業が2半期ぶりに悪化(+4.4→▲13.8)してマイナスに転じた。

利益状況の D.I.値は、製造業が3半期ぶり、建設業、非製造業が2半期ぶりにそれぞれ悪化(製造業:▲12.9→▲14.0、建設業:▲3.7→▲9.9、非製造業: +0.3→▲2.9)した。

設備投資の実施状況は、「実施した」企業の割合が2半期ぶりに減少(36.8%→35.5%)。在庫状況は、「過剰」とみる企業の割合が2半期ぶりに減少(7.6%→5.1%)。雇用状況は、「不足」とみる企業の割合が2半期ぶりに減少(49.2%→44.4%)した。

(注)DI(デフュージョン・インデックス)値…「良い」(増加など)の割合-「悪い」(減少など)の割合。



【項目別】

①県内景気	県内景気判断 DI値は 11 半期連続のマイナスとなったことに加え、マイナス幅が拡大(▲13.9→▲16.7)したことで、2半期連続で悪化した。先行きについては、2024 年度下期の DI値はマイナス幅が縮小(▲16.7→▲8.9)し、経営者の景況感は改善する見通し。(p3)
②業界景気	業界景気判断 DI値は、製造業が 11 半期連続でマイナスとなったものの、3半期ぶりに改善(▲33.3→▲24.5)、建設業が 11 半期連続でマイナスとなり、4半期ぶりに悪化(▲5.8→▲23.7)、非製造業が 13 半期連続でマイナスとなり、2半期ぶりに悪化(▲14.0→▲20.0)した。先行きについて、製造業、建設業、非製造業でそれぞれマイナス幅が縮小(製造業: ▲24.5→▲7.4、建設業: ▲23.7→▲17.1、非製造業: ▲20.0→▲12.9)する見通し。(p4~7)
③自社の業況	売上高の DI値は、製造業が4半期ぶり、非製造業が3半期ぶりに改善(製造業: ▲18.9→+33、非製造業: +46→+100)した一方、建設業が2半期ぶりに悪化(+44→▲138)してマイナスに転じた。先行きについて、売上高 DI値は、製造業が悪化してマイナスとなる(+33→▲25)ものの、建設業ではマイナス幅が縮小(▲138→▲5.9)、非製造業ではプラス幅が拡大(+10.0→+11.9)する見通し。 利益状況の DI値は、製造業が3半期ぶり、建設業、非製造業が2半期ぶりにそれぞれ悪化(製造業: ▲12.9→▲14.0、建設業: ▲3.7→▲9.9、非製造業: +0.3→▲2.9)した。先行きについて、利益状況 DI値は、製造業、建設業がマイナス幅が縮小(製造業: ▲14.0→▲4.9、建設業: ▲9.9→▲9.3)し、非製造業ではプラスに転じる(▲2.9→+0.3)見通し。(p8~15)
④経営判断	設備投資の実施状況は、「実施した」企業の割合が2半期ぶりに減少(36.8%→35.5%)。在庫状況は、「過剰」とみる企業の割合が2半期ぶりに減少(7.6%→5.1%)。雇用状況は、「不足」とみる企業の割合が2半期ぶりに減少(49.2%→44.4%)した。(p16・17)
⑤2024 年度 下期の展望	「プラス要因が強い」とみる企業の割合が3半期ぶりに減少(14.8%→13.5%)、「マイナス要因が強い」とみる企業の割合が3半期連続で減少(46.7%→42.9%)、「どちらとも言えない」とみる企業の割合が2半期連続で増加(38.6%→41.9%)した。(p18・19)
⑥特別調査 ～生産性の向上に向けた取り組みについて～	・生産性の向上に向けた取り組みについて、「現在取り組んでいる」と回答した企業の割合が 43.9%と最も高くなった。 ・生産性の向上に取り組む目的について、「企業収益の増加」と回答した企業の割合が 64.4%と最も高くなった。 ・生産性の向上に向けて取り組んでいること(検討していること)について、「新規顧客・販路開拓」と回答した企業の割合が 46.0%と最も高くなった。 ・生産性の向上を進めるにあたってどのような課題・障壁があるかについて、「従業員数の不足」と回答した企業の割合が 41.9%と最も高くなった。(p20~22)
⑦経営者の声 (自由記入)	<人材不足・人件費に関する声> 「人材(保育士)不足、賃上げをすることによる販管費の増加など」(医療・保健衛生業)、「人材不足解消、従業員待遇改善のため賃上げ実施」(その他の小売業)など。 <物価高騰に関する声> 「物価高騰により受注が減少している」(精密機械器具製造業)、「材料費が高止まりし、さらに徐々に上昇している」(一般機械器具製造業)、など。 <自動車メーカーの認証不正に関する声> 「不正行為を正すべく、かなり手間をかけることとなっている」(金属製品製造業)、「自動車メーカーの不正等による生産調整により設備投資が減少」(金属製品製造業)など。(p23~26)

【調査の概要】

1. 調査対象

三十三ビジネスクラブ会員で、資本金1億円以下の三重県下法人企業1,642先

2. 調査方法

郵送およびインターネットによるアンケート調査

3. 調査時期

2024年8月下旬~9月中旬

4. 回答状況

回収数594票 回収率36.2%

※ なお、詳細な内容につきましては、調査結果冊子をご参照下さい。